

アロハを生きる

スーザン・パイニウ・フロイド

前回のアロハ・ニュースで私は、私たちの源、そして両親と教師を敬い、子供たちの為に環境を整備するという魚の譬え全体について書きました。私はハワイの文化、フナの哲学、マッサージ、踊りと詠唱について多くを学び、たくさんの恵みを与えられています。私は感謝に満ちています。敬われるべきではない知識の側面や源に気づく時私は、時々容易に昔のやり方に戻り、批判的になり、アロハを忘れます。

尊敬されているフラの師匠で、メリーモナーク・フラ・フェスティバルの共同開始者であるアングル・ジョージ・ナオベはビッグアイランド(ハワイ島^{訳者})で、ケイキ(keiki; 子供)フラ・フェスティバルを毎年1月に、20年間催しています。このようなフェスティバルは、文化を活性化し続けるのに役に立つと同時に、開催されるホテルに多くの商売上のメリットをもたらします。

このフェスティバルでほぼ13年間ボランティアをしている私は、組織している人々が経済的にもうまく行う為に奮闘しているのかを見出す事に関心がありました。その様な関心を持って私は、一つの動因を見つけました。ホテルが、(アメリカ)本土のホテル経営者の方針に合わせて、自分たちのやり方を変更していたのです。彼らは提供するサービスの一つ一つに料金を課し始めました。例えば、組織関係者が競技の後で、毎晩集い、一緒にリラックスしたりゆっくりする為に部屋の使用を希望すると、料金が課せられるのです。ハワイの音楽が流れていて、先生や生徒がフラを踊るのを一般の人々が楽しめる様に公開されてはいましたが・・・。

ホテルは常に飲み物販売権を用いていたので、私が思うに、それから良い収益を得ていたでしょう。何か私が見落としている点があるかもしれませんが、上記した事が、ハワイ人に彼らの素晴らしい歓待に対して支払う妥当性が増しませんか？全く新たな試みをしながら、アングルや彼を助けている人々から不平を聞いたことはありません(しかし今年アングルは、一年休止することにしました。私は本当に一年だけの休止である事を希望します。)

カウアイ島の我が家に戻ると、E Pili Kakou I Ho'okahi Ka Lahuiの時期でした。島々からカウアイ島にクム・フラ(Kumu Hula;ハワイの踊りの教師)が、mana'o(智慧)を分かち合うために集まってきます。母と私は北海岸から短期間離れ、豪華なリゾート・ホテルに滞在をいつもしていたのですが、ホテルの予約が遅かったのです。二ヶ月前にも関わらず、全室予約済みでした。今年は、車でいったりしなくてはならないのかと思いましたが、キャンセルがあるかどうかもう一度電話するのを忘れない様にしました。数週間前でもまだ空きがありませんでした。一週間前に成功！あまり良い価格ではありませんが、部屋が取れました。

その翌日、私たちのクムフラであるカワイカプオカラニ・ヘウエット

(Kawaikapuokalani Hewett)から電話がありました。彼にオアフ島からの飛行機の時間を聞くと、彼の為にレンタルカーの予約をするのを返事の代わりとして、頼まれました。ホテルの予約が混乱し、クム(教師)たちは道を北上したホテルに滞在しなくてはならなくなったのだそうです。組織の方で彼らを行ったり来たり移動するバンを用意はするが、彼はもっと自由に移動したかったのです。勿論レンタルカーの予約はいたしますが、クムは出来ればマリオット・ホテルに部屋が欲しいのではないかしら?(私は心の中で、私たちが全て愛し、宝物の様に思っている先生たちが、開催ホテルに優先的に滞在できないとは何とひどいのかしら、とっていました。)クムは丁寧に、組織の方に確認してみると答えました。それで、私はいわば成り行きに任せることにしました。急いで私は自分のオーラをホテルにまで広げ、調和する様に告げ、シャーマンとしての働きかけをしました。イベントの二日前でもクムは、まだ他のホテルに予約されていたので、マリオット・ホテルに私は電話をすると、三晩一番安い料金で一部屋空いているのを知りました。急いで私はクムの為にその部屋を予約し、さらに私の部屋を安い料金にする事が出来ました。実践的なシャーマンニズムです!(脚注:ホテルは私たちの部屋のグレードを上げて、最高のオーシャンビューで、最も安い料金にしてくれました。)

それから楽しいことが始まりました!私たちのハラウ(Halau Hula Na Lei Kupua o Kauai)の踊り手の大半は毎年、カワイカプの二つのクラスを受講していました。彼の唄と教えが好きで、紛れもない霊的な経験だからです。今年は全ての参加者は其々の教師から一クラスだけ受講するように求められました。この規則には組織者側の良い意図があったのです。彼らは他の教師にも生徒を回したかったのです。私たちは調和したかったのですが、同時にそこに居る明確な理由がありました。私たちは私たちの源、クム・ヘウェットの所へ行って許可を得ました。他の参加者の場所を奪わない限り、自分は良いです、と彼は言いました。私たちは彼に、部屋の一番後ろで踊りますし、必要ならば見ているだけで踊りません、と申しました。それで落ち着いたと思ったのですが、受付で二日目に、クムの許可があっても参加できない、と言われました。悲しいけれど、最後通告でした。そして全ての部屋で全員の荷物が点検されたのです。私たちが良い事を望んだのは悪い事だった様に感じました。私には理解できませんでしたが、理解するのが私の学びではなかったのです。

私たちのハラウからは私だけがクムの二つ目のクラスに参加できました。クムが私に、ビデオ撮影を頼んだからです。私たちのハラウの他の人々全員は、積極的に他のクラスに登録して、結果的には素晴らしい時を過ごしました。私がクラスの直前クムに、なぜ他の人々がないのかを伝えると、彼は、「私が他の時間に、多分昼休みにでも、教えてあげると伝えなさい」と、言いました(結果的には、彼は翌週私たちにだけ教える為にカウアイ島に戻ってきました)。

組織関係者がクムの決断を尊重しなかったことに立腹せず、彼はその人たちの決定を重んじ、調和を求めました。そして卓越したクラスを教え続けたのです!私は組織の人々がなぜ規則にこだわるのかを思案するのに忙しく、何が大切なのかを見失いかけていました。楽しむこと、あらゆる瞬間を楽しむこと。私たちの人生で起こる事ではなく、それへの私たちの対応がとても大切です。何が起こっても、思い、言葉、行いによりどれ程私たちは、愛と批判しない態度を保持できるでしょうか。

「アロハを生きる」常に容易ではありませんが、思い出す価値はとてもあります。思い出すならば、卓越した解決策をより早く手に入れます。今度あなたが、大義名分を守るのを迫られていると感じたら、受容的であるべきか、正しくあるべきか、どちらが善いかをご自分に問いかけてください。

翻訳 M. Hayashi (2005)

Copyright 2003 Aloha International